

## 府中市生涯学習審議会（令和３年度第２回）会議録

１ 日 時 令和３年９月２８日（火）午前１０時～１１時４５分

２ 場 所 府中駅北第２庁舎３階 会議室

３ 出席者（敬称略）

（１） 委員１２名

榎本成子委員、大谷久知委員、佐野洋委員、島田文江委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、松木博子委員、福田豊委員、藤原美江委員

※岩久保早苗委員、木内直美委員、内藤大輔委員欠席

（２） 職員５名

二村文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、柏木生涯学習係長、山本事務職員、諫山事務職員

### ４ 報告事項

（１） 配布資料の確認

- ア 資料１ 第１回府中市生涯学習審議会会議録
- イ 資料２ 令和３年度第５２回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会開催要項
- ウ 資料３ 令和３年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回理事会資料（抜粋）
- エ 資料４ 府中市生涯学習審議会今期の方向性について
- オ 資料５ 府中市生涯学習サポーターについて
- カ 資料６ 府中市生涯学習センター講座内容について
- キ 資料７ 令和３年度府中市生涯学習センター講座策定の指針
- ク 資料８ 府中市生涯学習センター教養講座および生活実技講座受講概要（抜粋）

（２） 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（３） 令和３年度第５２回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について

会長から東京大会について説明があった。

委員：申し込み人数は現段階で何人なのか。

会長：３００人上限のところ、２００人程度となっている。目標に届いていないこともあり、申込期間が延長された。

委員： 会場の収容人数や過去の参加者数と比較すると上限300人は少ないように感じる。

会長： コロナ禍のため、今回は都外からの会場参加は募集しないということにしており、このような人数設定になっている。その代わり、録画したものを動画配信サイトで公開することになっている。

- (4) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会ブロック研修会・交流大会について  
会長からブロック研修会・交流大会について説明があった。

## 5 審議事項

- (1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

会長： 本日の流れについて、簡単に説明する。前半は、前期の答申において、府中市生涯学習センターで行われている講座のPDCAサイクルをもっとしっかりとした方がいいという提言がされた。例年、府中市生涯学習センターでも受講者アンケートなどを用いてPDCAサイクルを行っているが、その一助として、この審議会でも定期的に講座について紹介いただき、それについてアドバイス等をいただきたいと思います。そのため、今回は府中市生涯学習センターから社会教育主事をお招きし、講座設定の際に気を付けていることや講師選定の際に考えている事などについて話していただく。その後質疑応答の時間をとり、皆様からの意見やアドバイスをいただきたいと思います。いただいた意見は、府中市生涯学習センターの今後の講座決定に活用していただく。後半は、今期の流れや、方向性について説明をした後に自由討論という形を予定している。

それでは、説明をお願いします。

社会教育主事： 本日はこのような機会をいただき、感謝している。まず資料6をご覧ください。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う第1期はすべての講座を中止し、第2期は通常の1割程度の実施におさえた。また、第3・4期は、講座総数は通常期に近いものの、定員は講堂で34%、生活実技講座は定員の50%で開講した。過年度と大きく異なるのは「ゆりかごから墓場まで」の社会福祉政策のスローガンを目標とし、それに値する講座として、乳幼児から小学校の全6学年分を網羅する講座企画・運営を行った。また、長期休暇中を利用した子どもの居場所作りの講座企画も行い、高齢者が利用する雰囲気学習施設から、子ども達の声がこだまする学習施設を目

指したい。また、外国語講座は初めて語学を学びたいというニーズを大切にしている。また、ある程度の知識が身について受講生同士が学び合える環境になれば、上級コースはサークル化して、サークル数を増やしていくことを画策している。

会長： 今の説明を受けてなにか質問や意見、アドバイスなどあれば、いただきたい。

委員： 2年ほど前から府中市生涯学習センターでフランス語の講座を受講しているが、講師が経験豊富で教え方が良く、この様な講座を受講できることで、府中に住んでいてよかったと思えた。ただ、1年のうちの限られた時期しか受講できない。もう少し期間を延ばしてほしい。さらに、学び返しの観点から言うと、自分が他のメンバーに教えるほどの力がなくとも、留学生に参加してもらえれば、会話の自主サークルができる。府中市には東京外国語大学があるのでフランス語に限らず留学生の協力が得られればありがたい。また、中国語やスペイン語など、ビジネスでも役立つ言語の講座も開講してほしい。中国語の講座があれば、受講したいという市民の方もいた。

社会教育主事： 低価格で質の良い講座を目指し、多くの外国語を学べる環境を整えるべく、講師の確保も含めて策定している。市民からも同様の希望があるので、できる限り多くの語学講座を備えていきたい。

また、東京外国語大学の学生をアルバイトとして雇用しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、去年は参加してもらうことができなかった。府中市生涯学習センターの講座の講師として、東京外国語大学オープンアカデミーに講師を依頼している。

委員： 資料8のNo. 8とNo. 9の講座で小学生のキャリア教育というのが、これは具体的にはどういった内容の講座なのか。教員という立場から何かアドバイスできるかもしれないので教えてほしい。

社会教育主事： 内容としては、元森永製菓の商品企画部にいた方を講師にお招きし、コンビニの商品について、パッケージの工夫や商品陳列、価格設定などを子どもたち自身で考えていく講座である。

委員： このキャリア教育講座の内容をマーケティングにした意図などを教えてほしい。

社会教育主事： 導入のきっかけは、小学校の現状の教育課程では、キャリア教育を実践・実施するには限界がある。多くの小学校はスーパーや商業

施設を見学するだけで終わってしまっている。そこを補いたいと思い導入した。

委員： 子ども達向けの講座としてマーケターに関する実践的講座が設定されたことに実はとても驚いている。なぜなら、マーケティングは、学術的にもすこしグレーな部分があると指摘されているからである。それは本来、企業の対市場活動を指すものであり、市場経済システムの主体としての企業が販売促進活動を展開することに関わる。マーケターは販促活動をすることによって利益を増進させることを狙うのであり、いわば利益を得るためのスキルを立案、実践するといえる。子ども達にこのような一種のバイアスのかかった(偏りのある)活動を学習させるのは、キャリア教育の一環とはいえ、望ましくないのではないか。また、子どもならではの発想で、とてもいい案が出た場合それを企業がもらい自分のものにしてしまう場合もある。その意味でも、マーケティングなどの講座をやる際には、注意が必要であると思う。

社会教育主事： ご指摘の点は、企画側として十分配慮しなければならないと感じている。子ども達が商品の価格設定や売れ行き予想など、ある企業の商品に特化するマーケティング講座にならないようにするため、すでに企業とは無関係になっている方を講師としてお招きした。

委員： 講座内容は趣味的なものが多く、段階的に上級になったら「サークル化して」という形では、講師の人は「学び返し」になっているが受講生の方にとっては、「学び返し」になっていないように思える。その点については、どのようなお考えをお持ちなのか。また、新型コロナウイルス感染対策として定員削減としているが、今後、いつ収束するかわからないコロナ禍で定員削減以外の新たな手法の開発などは考えているのか。

社会教育主事： 「ゆりかごから墓場まで」を1つのテーマとして、各世代幅広く対応している。またコロナ禍における新たな手法について、今年度は生涯学習フェスティバルを動画配信に変更したが、多様化に向けては設備面の制約がある。

委員： 府中市生涯学習センターを利用して団体の活動をしているが、不便だなと感じることがある。まず交通の便である。駅から離れており、バスで来る人が多い。そのため、イベントをやる際には、そのバスの時間も考慮してイベント時間なども考えなくてはならない。

また、講師謝金の基準がわからないため、講師謝金の基準があれば、それを教えてほしい。また、講座の申込み方法について、パソコンからの申込みは高齢者には難しいのではないかと。電話1本で申込みが完了できるなど、簡単な方法を考えてもらいたい。また、広報について講座の一覧チラシを作成していると思うが、字が小さいため、読みづらい。府中らしい情報誌であってほしい。

会長： バスの本数や、時間については市での検討事項になるため、その他の部分についてご回答いただきたい。

社会教育主事： 講師謝金の基準については、案内が不十分であったと感じている。また、広報についてであるが、媒体が限られていることもあるが、ホームページが見ることができない環境にある方への対応などについては課題であると感じている。チラシの文字の大きさなど、できるところから対応していきたい。

委員： 受講申し込みについては、当選ハガキもしっかり郵送されているため、特に問題はないと思う。

委員： 文化センターで市の施設予約や支払いできるが、あのシステムの中に組むこむことができないのか。

社会教育主事： 施設使用料の入金システムや申込みに関しては、現状のままでは課題も多いが、システム上、文化センターなど入金システムは共有している部分もある。

委員： 指定管理者としてのコンベンションリンケージの役割ないし、関与の仕方について2点お伺いしたい。1点目は、新たな講座の企画はどのようにして遂行したのか。また、これに関してコンベンションリンケージはどのような役割だったのか。2点目は、PDCAサイクルの改善という課題があったはずなのでお尋ねするが、今回からチェックからフィードバックで改善したことはあるか。

社会教育主事： 講座の開設については、市民のニーズに合ったものや、市民が欲しているものをアンケート等で確認・策定している。PDCAサイクルについては、アンケートについて、過年度と比較ができるよう前半の項目は同一にしている。昨年度からは、複数回講座については、どの回のどのような内容に感銘を受けたかや、府中市生涯学習センター側に対する改善点等を聞くような質問を追加した。

委員： テーマとして、「ゆりかごから墓場まで」を取り入れた根拠はなんなのか、どこかが設定した目標なのか。

社会教育主事： 国立社会教育政策研究所が公表した方針を取り入れている。国が発表したという事ではない。

会長： ほかに質問等が無ければ、前半部分は終了したい。なお、その前に私からのコメントとして、2点挙げさせていただく。まず1点目として、小学生のキャリア教育について、これは学校教育現場との連携が大切であり、委員から指摘があったように、子どもたちに何をどう提供するかは慎重な検討が必要であると考えます。2点目として、本日の社会教育主事のお話では、府中市の「学び返し」を「学び直し」と捉えているように感じた。「学び返し」は本人がもう一度学ぶという「学び直し」ではなく、学んだことを地域や社会に還元していく、という意味であることをもう一度確認していただきたい。

それでは、後半、今期の審議の方向性について簡単に説明する。前期の答申では、様々な提言をいただき答申を行った。この答申については、市の方で実現に向けて検討をしてもらっている。前期と今期を切り離して考える必要があることから、今期は、生涯学習サポーターに焦点をあてて審議をしていきたいと思う。審議は、資料4に記載の3つを軸にして議論を進めていきたいと思っている。そこで今回はこの諮問事項について自由討論の場といたして、皆さんからの意見を伺いたい。

まず、この生涯学習サポーターについて、新規に登録をする場合どうするのかについてと、サポーターが依頼を受けた場合、市から何か謝礼が出るのかという事について聞きたい。

事務局： 新規で登録をする際には「府中市生涯学習サポーター登録届出書」を市に提出してもらうことになっている。この用紙はホームページからダウンロード可能である。提出したあと、市の方で登録処理を行い、処理完了後、登録決定通知を送付して登録完了となる。依頼があった時には市からの謝礼は出ない。利用については、依頼者から、実施依頼書を提出してもらい、市からサポーター登録者に電話連絡及び、FAXにて依頼書を送付し、サポーターと依頼者間で直接実施内容や謝礼について調整をしてもらうという形になっている。

委員： 先ほど、会長から前期と今期は切り離して考えるとお話があったが、資料4の審議の軸の2番目の内容はどうしても前期と重なる部

分だと思うが、それでよいのか。

会長： その場合は重なっても良いと思う。

また、資料5は、生涯学習サポーターの登録者数と依頼数の推移となっている。登録者数は増減を繰り返しており、依頼数は特にコロナ禍になってから大幅に減少している。この登録者数の減少は年度の途中で申し出があったものなのか。

事務局： 2年に1度登録更新があり、その際に更新しない旨の回答があったものが大半である。また年度中に削除の依頼があった方もいる。

委員： 資料5を見ると、コロナ禍になる前から依頼数が少ないと思う。民間企業であれば、3年間もこの数字では事業の存続の問題になると思うが、今後はこの依頼数も伸ばしていきたいという解釈でいいのか。

会長： その通りである。

委員： 生涯学習サポーター一覧を拝見しますと、どのような経験の持ち主かわかりにくい。余白にその人の顔写真や指導中の写真、プロフィールなどを書いたり、フォントや色を変えてみたり、工夫してみるのもいいのではないか。

委員： 今回配布されている資料を見て、初めてこのような事業があることを知った。やはりまずは、市民に知ってもらうための広報をしつかりすることが必要であると思う。

委員： 文化センターにも一覧の冊子は置いてあるが、個人にPRしても意味があまりないと思う。依頼するのは団体であるため、そこに向けての広報が必要だと思う。

委員： 市民人材の活用といっても行政側としては色々な点からの制約があるかと思うが、生涯学習サポーター登録制度を広めていくためには、職場等への働きかけもあるのではないか。有能な働き盛りの方や専門的知識を持つ方などからも参加してもらうには、また、参加しやすくするためには職場の理解が不可欠である。市内には積極的に、地域社会に貢献されている会社がいくつもあると認識しているが、さらに広く、会社や団体ぐるみの地域社会貢献意識の向上について呼び掛けていくことも必要ではないだろうか。

委員： 会社ごとに理念や考えが違う。会社で社会参加を評価するところもあれば、「働き盛り」、「働かせ盛り」で、自分自身のキャリアを見据えている世代にとっては、生涯学習への協力はそう簡単なこ

とではない。

委員： P D C Aの観点から言うと、Pの計画の生涯学習の長期的な目標レベルを近隣自治体よりも高く設定してもいいのではないか。なぜなら府中市には、競馬場や競艇場があり、ギャンブルというイメージがある。また、他にも府中市民に直接利益を与えるというよりは、広く、都民、国民のための施設が多くある。更に、例えば、山梨県立美術館は、文化不毛とも言われた山梨県を変えようと、努力し、今では、府中市民も訪れるようになり、イメージの向上にも役立っている。府中市も、P D C Aの見直し時には、イメージを向上させ、また、市民が市内に住んでいることによる利益を感じられるよう、より志の高い目標をたてていただきたい。

会長： 次回は、可能であれば実際に生涯学習サポーターに登録し、活動している人を招いて話を聞くなどといったことをやってみたい。

## 6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和4年1月に開催することで、了承を得た。